

【研究分担課題名】 地域連携のコーディネートに関する研究
研究分担者：葛田 衣重 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部 技術系職員

研究要旨：HIV 陽性者に初めて出会う専門職（非拠点病院 MSW、PSW、社会福祉士等）にむけ、陽性者が利用できる社会資源、資源利用のポイント、HIV 感染症の知識などをまとめた「千葉県版 制度の手引き」を作成した。支援者が制度利用に人権擁護の視点を持つ重要性を示した。本冊子の妥当性の検証、制度更新に対応する体制づくりも必要である。

A. 研究目的

我が国の社会保障制度は、疾患名や障害の程度、所得などに応じてすべての国民が適切に利用できるよう整えられており、HIV 陽性者についても例外ではない。2018～2019 年度に取り組んだ対人援助職（非拠点病院 MSW、社会福祉士、ケアマネジャーなど）向けの啓発研修からも、正しい知識の取得、支援の実際が陽性者理解に有効であることが明らかであった。そこで HIV 陽性者に初めて出会う支援者のために、HIV 感染症の知識、予防の知識、社会資源、社会資源利用のポイントなどをまとめた「千葉県版 制度の手引き」を作成する。

B. 研究方法

令和元年から作成を開始した「千葉県版 制度の手引き」について内容を検討、まとめた。研究協力者は、千葉県エイズ治療拠点病院等から 1-3 名。検討会議は 2 回（R2.2.15/2.24）オンラインで実施した。

C. 研究結果

「千葉県版 制度の手引き」を発行した。
配布対象：医療と生活を繋ぐ専門職として、MSW、PSW、社会福祉士とし、それぞれ千葉県医療ソーシャルワーカー協会、千葉県精神保健福祉士協会、千葉県社会福祉士会を介して会員に提供することとした。

内容：HIV 感染症の知識、治療と予防、医療費を軽減する制度、就労、妊娠出産、介護、ターミナル期、外国人支援を項目として立て、分かりやすく説明するとともによくある質問に答える形式をとった。

D. 考察

千葉県は全国的に HIV 感染者も AIDS 症者も常に上位に位置付き、特に AIDS の割合が高い状態が何年も続いているが、地域で生活相談にのる社会福祉士にはほとんど支援経験がない実態があった。医療と生活を繋ぐ MSW（拠点病院以外）および PSW も同様であった。正しい知識の提供に加え、

HIV をとりまく社会情勢、制度利用に伴う病名の取扱い、終末期の準備における配慮、など人権擁護のメッセージを含む啓発を推進する必要があった。さらに HIV 感染症は他の疾患や領域に比較して外国人の割合が高く、困難事例が多いことも特徴であり、日常的に相談し連携している社会資源を整理したことも有効と考える。

今後は、現場での有効性、研修テキストとしての妥当性などを検証するとともに、制度更新に柔軟に対応できる体制づくりも必要と考える。

E. 結論

HIV 陽性者を包括的に理解して支える生活・福祉専門職のために、千葉県エイズ治療拠点病院等 MSW のネットワークを活用し、「千葉県版 制度の手引き」を作成した。相談支援において、あるいは HIV 関連研修などでの利用状況を検証し、内容の適切性の吟味、制度変更への対応など、長期に利用できる体制の検討も必要である。

F.健康被害 なし

G.研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H.知的財産の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし